

# エピソード122 中断

ドッチボール大会、中学年の日。三年生の試合で、アクシデントが起きました。

投げたボールが顔に当たってしまったのです。その時、自然と試合が中断されました。審判をしていた運動委員の子が止めたわけではありません。自分たちで「ストップ、ストップ」と、中断したのです。

当てられた子がコートの外に出るのを待って、当ててしまった子が謝りに行きました。

その様子を見て、審判が「試合再開」を告げました。